

平成21年度基礎・基本到達度調査について（分析結果報告）

実施日 平成22年2月1日(月)
対象児童 3年生 男子2名 女子6名

国語科の学習状況について

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」「読むこと」においては、佐賀市の平均正答率と同じ程度、または少し上回る程度であったが、「読むこと」においては、佐賀市の平均正答率を下回るという結果であった。

良かった点・課題点

話すこと・聞くこと

他の問題の正答率が高かったのに比べ、「話の中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめること。」に関する問題の正答率が低かった。

書くこと

「書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。」は、大変よくできていた。

「自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。」「相手や目的に応じて適切に書くこと。」に課題がある。

読むこと

「目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。」「目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。」は、設問によって正答率の差があり、個人差も大きいところがある。

言語事項

「主語と述語の関係」「指示語や接続語を使うこと。」「修飾と被修飾の関係」「辞書の利用の仕方」に関しては、おおむねできている。

漢字を読むことに関しては個人差が大きく、「筆順」「送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。」「表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。」等に課題がある。

指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

- ・ 聞いたり話したりする活動と自分の考えをまとめる活動を関連させて指導する機会を多く取り入れる。

書くこと

- ・ 相手や目的を意識させた文章を書かせたり、自分の考えがはっきりと伝わるように段落相互の関係を考えさせながら書かせたりする指導を行う。

読むこと

- ・ 語句や文を追いながら正確に読み取る指導を段落相互の関係を考えさせながら行い、子ども同士の関わりの中で読みを深めていく。

言語事項

- ・ 漢字の筆順を意識させながら、個人差に対応した漢字学習をさせる。
- ・ 漢字学習では、活用を意識することができる指導を取り入れる。
- ・ 学校、家庭において、読み聞かせや音読等で、読書や語彙への興味関心を高めていく。

算数科の学習状況について

本校の算数の基礎的な学力全般的な結果としては、佐賀市の平均正答率をほぼ上回っており、おおむね良好だといえる。

観点別に見ていくと、下記のような課題が見えてきた。

良かった点・課題点

知識・理解について

数の構成，長さ・重さの単位換算，かさの単位変換，かさの数値化，図形の構成要素，直角三角形の定義に関する問題については全員が正答しており，他の設問の正答率も高かった。

数直線の理解，数の構成，巻き尺の使い方で見えづきが見られた。

表現・処理について

ほとんどの設問で，全員が正答していた。

はかりの目盛り・巻き尺の目盛りの読み取りに課題がある。

数学的な考え方について

全ての設問で，佐賀市の平均正答率を上回っていた。

個人差があり，個別に指導する必要がある。

指導改善のポイント

知識・理解について

- ・ 長さや重さ，かさについては，実際に操作することで実感を伴って理解させ，知識として定着するよう生活の中のもの結び付けて繰り返し取り扱う。
- ・ 日常生活の中でも量感を育てるよう，家庭に協力をしてもらい，数を数えさせたり，かさや長さをはからせたり，買い物させたりしてもらおう。

表現・処理について

- ・ 生活の中で時計やはかり，巻き尺を取り扱ったり，練習問題の目盛りなどを読み取らせたりする。
- ・ 今後も，正確に表したり計算したりできるように意識させながら，習熟を図る。

数学的な考え方について

- ・ 具体物を使った操作活動を十分に行わせ，定義や性質が言葉だけでなく体験的に理解させたり，文章で示された問題を絵や図に書き表したりさせながら指導していく。また，個人差に応じた手立てをとって指導していく。